

## スプリンターズステークス

過去 5 年のスプリンターズ S を二桁人気で馬券になった馬は 4 頭。

2018 年に 11 番人気で 2 着のラブカンパー、  
13 番人気で 3 着のラインスピリット、  
2021 年に 10 番人気で 3 着のシヴァージ

この 3 頭は父と母父どちらもサンデー系ではない馬。

と書きながら、

本命はサンデー系のナムラクレア。

サンデー系が当レースで不振なのは、  
直線の長い中距離で末脚の伸びを強化するから。

逆にいえば、馬力とスプリント力を強化した配合馬ならばサンデー系でも買い。

たとえば 2003 年のスプリンターズ S。

当時もサンデー産駒はスプリント戦が鬼門といわれていましたが、  
サンデー産駒が 1-3 着を独占。1、3 着は母父がノーザンテースト。  
2 着は母父がダンチヒ。

今でもダンチヒとノーザンテーストは似た特性を持つ。  
と書いていますが、当時も仕組みは同じ。

そしてサンデー×ダンチヒ or ノーザンテーストの配合は、  
直線が長い中距離 G1 で結果を残せなかったのも、  
馬力とスプリント力を強化した分、伸びを強化できないから。

ナムラクレア、そしてミッキーアイルはどちらもミッキーアイル産駒。  
同種牡馬は母父がダンチヒ系。自身もスプリント G1 を複数連対。  
芝 1800m 以上には出走すらない馬。

ナムラクレアは母父もノーザンダンサー系。  
馬力とスプリント力を母方からも強化。  
スプリンターズ S に合う血統。

前走は短縮で激走後。加えて内枠有利のレースで外枠。

ミッキーアイルも適性自体は問題ないのですが、  
短縮レコード激走後。反動が出やすいダンチヒを強調した血統。  
加えて、外枠不利になりやすい馬場はどうでしょうか。

ダイアトニックは父がスプリントの超名血ロードカナロア。  
母はサンデーサイレンスの伸びよりもスプリント適性を強化した血統。  
(2年前の高松宮記念で本命にする際にも同様のことを書いています)

短縮、内枠は例年の当レース。そして今年の馬場でも穴パターン。

ヴェントヴォーチェはサンデーを持たない馬で、  
母父も日本の芝 1200mG1 でも連対馬。

芝 1200m 重賞勝ち馬を出しているディスタントビュー。  
母系には当レースに相性の良いナスルーラ系で世界最上級のエーピーインディ。

この馬自身はリズムよく乗りやすい枠ですが、  
ペース次第では 12 番ゲートでも不利になる可能性はある馬場の分少し割引。

ジャンダルムは奇しくも、先程話題に出た 03 年に 1 人気で 2 着のビリーヴが母。

見解をまとめると、03 年のようにスプリント適性を強化した  
サンデーを持つ馬が上位を占める結果を期待することになりました。